

知的障害教育における 子ども主体の授業づくりに関する教員研修

発表者：田淵 健（岩手大学大学院教育学研究科教職実践専攻）

指導教員：佐々木 全（岩手大学教育学部 准教授）

課題申請者：最上 一郎（いわて子ども主体の知的障害教育を学ぶ会 会長）

問題の所在

- 岩手県内特別支援学校に在籍する児童・生徒の内、最も多い障害種が「知的障害」
- 岩手県内の小中学校の特別支援学級で最も多いのが「知的障害学級」
- 知的障害教育における授業の工夫，改善が必要 → 研修の必要性
※学校教育法施行規則130条第2項で，各教科等を合わせて授業を行うことができると規定
※知的障害教育では「子ども主体」の理念を授業で体現することを伝統的に追求
- 県教委「いわて特別支援教育推進プラン（2019～2023）」において，「特別支援学校公開研究会への参加」が新規・重点施策に
→ 平成30年度，県内1校のみが公開研究会を隔年で実施という現状

目的と方法

知的障害教育における「子ども主体」の授業づくりについて、県内教員の研修の機会を提供すること（年に1回の研究会、各月1回程度の学習会を企画運営）

「知的障害教育における子ども主体の授業づくりの内容すなわち研修内容の開発



- 知的障害教育における子ども主体の授業づくりを先駆的に行っている県内外の特別支援学校、学級の視察を行う。
- 研究会・学習会において、知的障害教育における子ども主体の授業づくりに関する協議をし、そこでの実践例及び協議内容についてテキストとし公開する。

研修の機会（研究会等）の内容及び方法の評価



研究会の内容及び方法の評価として、参加者に対する満足度調査及びインタビュー調査を実施し、これらを分析し成果と課題を明らかにする。

結果 1 県外支援学校の視察

- 先駆的に「子ども主体」の実践に取り組んでいる山形県立米沢養護学校 学校公開研究会への参加。
- 岩手の研究会への協力を依頼
- 「やまがた子ども主体授業実践ネットワーク」主催の研究会への参加

「小学部 指定授業の様子」



「鬼が島」からの滑り台を滑る児童



3匹のこぶたの世界観で存分に遊ぶ児童



しらゆき姫になりきっている児童

米沢養護学校研究部

「自分から自分で」を合い言葉にできる状況づくりに取り組んでいます。

平成31年度 研究主題

自立と社会参加を目指す「子ども主体」の授業づくり（2年次）

～一人一人の育成を目指す資質・能力を踏まえて～

「中学部 指定授業の様子」



iPadで作った配色どおりにタイルを配置する生徒



それぞれの得意な方法でコースターを製作する生徒



お互いが作ったものを報告し、翌日の確認をする生徒

※ 画像の掲載については承諾を得ています

結果2 研究会等の実施

研究会

- 令和2年2月15日（土） 10:00～16:00に岩手大学にて実施
- プログラムは、小学校特別支援学級・特別支援学校の実践発表，シンポジウム，大学教員による講演
- 参加人数60名（発表者・事務局含め）
- 「やまがた子ども主体授業実践ネットワーク」との共催

学習会

- 平成31年4月20日（土），令和元年6月29日（土），令和元年10月12日（土），令和元年11月30日（土），令和2年2月8日（土）の計5回実施
- 実践発表，大学院生の研究に係る協議，情報交換等
- 市内の教員，大学院生など5～10名程度の参加

研究会の様子

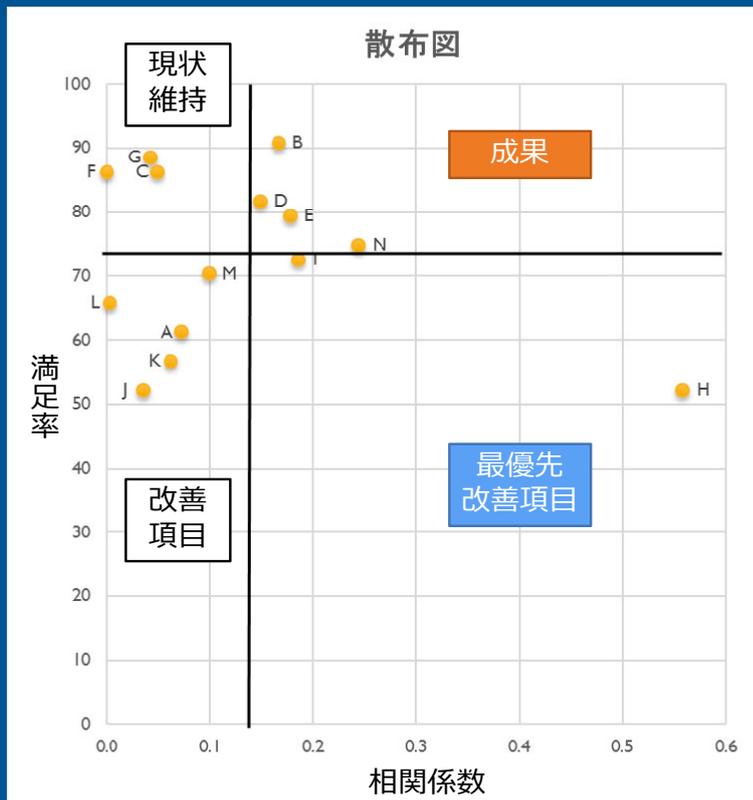


※ 画像の掲載については承諾を得ています

結果3 研究会アンケート結果 (CS分析)

- 研究会参加者44名から5件法による回答
- CS分析 (菅, 2013) によって分析
- 満足率は、回答における「5 (当てはまる)」が占める割合
- 相関係数はQ1 (総合評価) と下記A~Nの相関
- 総合評価の満足率は4.8

A	研究会の開催時期 (2月の土曜日) は良かった。
B	参加費が無料であることは良かった。
C	研究会の開催場所は良かった。
D	研究会のプログラム「基調報告」は良かった。
E	研究会のプログラム、小学校特別支援学級の実践発表は良かった。
F	研究会のプログラム、特別支援学校中学部の実践発表は良かった。
G	研究会のプログラム、県外の特別支援学校中学部の実践発表は良かった。
H	研究会のプログラム「シンポジウム」は良かった。
I	研究会のプログラム「まとめ・講演」は良かった。
J	研究会の案内 (チラシ・文書のメール配信) は良かった。
K	「各教科等を合わせた指導」の理解を深めることができた。
L	授業づくりにおける「支援の手立て」の理解を深めることができた。
M	自分の授業づくりの参考になった。
N	次回もこの研究会に参加したい。



結果4 研究会アンケート (自由記述) から

内容に関して (成果)

- 【支援の手立てを観点別に取り上げたことについて】
 - 実践事例を3観点で考えることが出来て良かった (同内容5件)
- 【授業づくりに関して】
 - 子どもが主体的に学ぶために大切にしたいことをたくさん学ぶことができた。
- 【県外の発表等について】
 - 県外の実践について知ることができる貴重な機会であった。(同内容3件)
- 【講演・まとめについて】
 - 名古屋先生のお話が勉強になった。

内容に関して (課題)

- 【各教科等を合わせた指導について】
 - もっと詳しく話を聞きたかった。(同内容1件)
- 【支援の手立てについて】
 - もっと詳しく話を聞きたかった。
- 【シンポジウムについて】
 - 論点があると深まったのでは。

運営に関して

- 【付箋の活用について】
 - 付箋に書くことで考えを深められた。
 - 付箋に記入する時間が不足。
- 【案内について】
 - ホームページでの案内を。
 - 会場の案内表示を。
- 【感謝等】
 - 初めて参加しました。大変勉強になりました。ありがとうございました。(同内容13件)
- 【感想等】
 - 部活指導のない時期で参加できた。
 - 児童生徒をより細やかに丁寧に見取る力が本日の先生方の実践を支える根本である。

結果5 論文・資料の作成・公開

● 共同研究（論文の執筆）

- ① 「各教科等を合わせた指導」を志向する知的障害特別支援学校教員の授業づくりに関する意識
- ② 『学習指導要領に基づく「各教科等を合わせた指導」の授業づくりの要点』
- ③ 知的障害特別支援学校における「育成を目指す資質・能力」と「各教科等を合わせた指導」の関連—授業づくりの要領の探究として—
- ④ 育成を目指す資質・能力を踏まえた「各教科等を合わせた指導」の授業づくりの要領—アクション・リサーチによる開発の試み—

● 研究会資料の作成

基調報告資料，3校の実践報告資料，講演資料を冊子化し，当日配布

考察1 成果

1. 研究会について，アンケートの総合評価は高評価であり，参加者の満足感を得ることができた。
2. 基調報告に基づき，授業における支援の手立てを分類することで学びが深められた。付箋を用いたことが有効であった。
3. 各校の実践発表が具体的でわかりやすく，参加者の学びにつながった。

考察2 課題

1. シンポジウムについて、満足度につながらなかった原因を探り、内容の検討が必要
2. 知的障害教育における独自の指導の形態である各教科等を合わせた指導や、支援の手立てについての基本的な理解の推進が必要
3. 研究会の案内の時期と方法、開催時期など運営面での検討が必要

まとめ

「子ども主体」の授業実践の発表は具体的で、参加した教員にとって、わかりやすいものであった。一方で、学生や特別支援教育の経験の浅い教員などの参加者は、「各教科等を合わせた指導」等、知的障害教育における特徴的な指導の形態や指導方法、内容に関する理解の機会を欲していることが窺えた。これから学びたいという方々のニーズにも応えていける研究会等を企画・運営していきたい。

文献

- 菅民郎 (2013) Excelで学ぶ多変量解析入門.オーム社.
- 田淵健・佐々木全・東信之・名古屋恒彦・最上一郎 (2020) 知的障害特別支援学校における「育成を目指す資質・能力」と「各教科等を合わせた指導」の関連—授業づくりの要領の探究として—.(岩手大学大学院教育学研究科研究年報, 4. 印刷中)
- 田淵健・佐々木全・東信之・名古屋恒彦・最上一郎 (2020) 学習指導要領に基づく「各教科等を合わせた指導」の授業づくりの要点. (岩手大学大学院教育学研究科研究年報, 4. 印刷中)
- 田淵健・佐々木全・東信之 (2019) 「各教科等を合わせた指導」を志向する知的障害特別支援学校教員の授業づくりに関する意識. 生活中心教育研究,34,65-74.
- 田淵健・佐々木全・東信之・阿部大樹・田口ひろみ・中村くみ子・岩崎正紀・藤谷憲司・上濱龍也・最上一郎・名古屋恒彦 (2020) 育成を目指す資質・能力を踏まえた「各教科等を合わせた指導」の授業づくりの要領—アクション・リサーチによる開発の試み—. (岩手大学教育学部プロジェクト推進支援事業教育実践研究論文集, 7. 印刷中)